

郵便報知新聞
便錦電第7号

東京之中内前香波塗業の忠告
 万言が根元は六年のふと昔
 文行義理と有景曲の花枝中山
 忠成方人増せやア一が答の花の
 なんとやふ望あめくも鏡形ちの美る
 小忠成心とくわ明暮手活と云こ
 まことその嵐とびるも今憎い
 百倍と只ちくくのちち抑々悲し
 親里へかく長章の神のりい文へ
 花暇をふとわつたてのさか目と
 免とぬるあふのまか長た
 心よ又明後年六月其の夜あつた
 郵を投出親里逃かへり身内を見れ
 青漆で唾かかろりさ隣目もぼ
 うのらちんとひふとや
 好まざんか



二
新
修
重

中
修
重
歩
重

版元池田傳兵衛
筆者川上成和

